

学術総会会長賞を受賞して

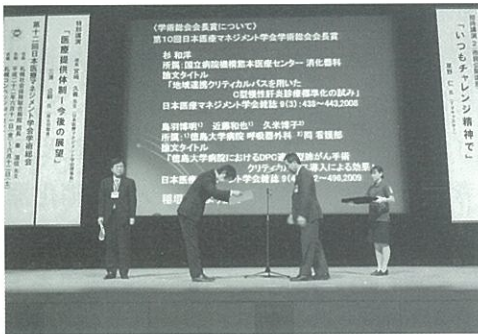
徳島大学病院 呼吸器外科 鳥羽博明

このたび、第10回日本医療マネジメント学会学術総会会長賞という非常に名誉ある賞をいただき、光栄に思っております。

内容としては、DPCに適合させた肺がん手術クリティカルパスを作成し、その運用効果について発表したものです。

われわれがクリティカルパスを作成した2007年当初、徳島大学病院ではクリティカルパス黎明期であり、運用に当たっては非常に苦労したのを覚えております。しかし、それぞれのスタッフの努力と連携によって、徐々に理解も深まり、現在では非常にスムーズに運用できるようになっています。また、他疾患でもクリティカルパスが導入されており、裾野の広がりを感じているところであります。これまでにずいぶん症例を重ねることができましたので、今後はバリエーション分析・クリティカルパス改訂とよりよいものにするための努力を続けていきたいと思っております。

今後の日本医療マネジメント学会のさらなる活動の発展を祈念するとともに、これからもご指導の程何卒よろしくお願いいたします。



学術総会会長賞を受ける鳥羽博明氏

支部学術集会開催報告

第8回千葉支部学術集会

代表世話人：船橋市立医療センター副院長・

医療安全管理室室長 唐澤秀治



会場風景

2009年2月28日(土)、第8回千葉支部学術集会を船橋市立看護専門学校で開催し、122名が参加しました。本学術集会のテーマは「失敗から学ぶ医療安全～必ず役に立つ研修会～」としました。そのテーマに基づき特別企画として「非常に役立つ医療安全研修トップ5」を医療メーカー、医薬品メーカーの方々これまでの事故事例を踏まえた安全への取り組みをご講演頂きました。また、講演会場の前室に講演内容を再現した「トップ5の展示コーナー」を設け、参加者が追体験した

り、疑問を解決できる場としました。特別講演は、船橋市立医療センター安全管理室長の唐澤秀治副院長に「失敗から学ぶ医療安全」についてご講演頂きました。「失敗を教訓として生かすこと」をこれまで体験した事例を通して話され「失敗学の学び」の必要性を強調されました。多くの学びを得た有意義な集会であったと思います。改めて学会参加者にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

(文責：船橋市立医療センター看護部長 鈴木久子)

第9回大分支部学術集会

当番世話人：中津市立中津市民病院副院長 松尾 進



会場風景

2009年3月7日(土)、中津市立小幡記念図書館において約200名の参加を得て大分支部学術集会を開催しました。

一般演題7題、今回のテーマ「医療安全の創意工夫」を主題にしたシンポジウムに11演題が集まり、3部に分けて行いました。各施設から医療安全に対する具体的活動が報告されました。特別講演は前週に長崎支部の学術集会でも講演なさった自治医科大学の河野龍太郎先生に「医療システムにおける3本のベクトル—安全と効率と品質向上のために」と題してご講演いただきました。その中で「医療安全活動は終わりのない勝ち目のない戦争だが、やめるわけにはいかない。効率的に医療安全活動を行うには個々ではなく多くの人が共同で行うことが重要だ」と話されました。医療安全を推進し、患者の安全を守るためには、医療者が職種や立場の壁を越えて、医療を担う病院と医療を支えるさまざまな団体・学会・行政・地域社会と一致協力して医療事故の防止に取り組む必要があります。医療安全に対する全国的共同行動の重要性を強調されました。クリティカルパスは15題応募があり、4題の地域連携クリティカルパスも展示されました。討論も活発に行われ、実りある学術集会であったと思います。今回の学術集会に対する中津市立中津市民病院の全職員のご協力と中津市のご支援に感謝いたします。

第8回青森支部学術集会

当番世話人：むつ総合病院院長 小川克弘



会場風景

2009年6月20日(土)、第8回青森支部学術集会が、青森市・アラスカ会館において開催されました。参加者は、過去最高の313名でした。

一般演題は、分野別に「クリティカルパス」が2題、「医療の質」が2題、「地域医療連携」が6題、「病院運営」が3題、「医療安全」が14題の計27題でした。それぞれの医